

# SOTOKU

崇徳学園同窓会  
関東支部  
会報  
— 第23号 —

発行：崇徳学園同窓会関東支部 編集：支部事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷4-37-20

http://www.geocities.jp/sotoku\_kanto/ mail:sotoku\_kanto@yahoo.co.jp TEL (03) 3812-1211(代) FAX (03) 3816-1218

ホテル機山館

## グローバル社会と個人・地域活動の共生を。すべての基礎は教育 — 幅広い人材教育の母校をみんなで支援しましょう!! —

崇徳学園同窓会関東支部会長 黒川 弘 (昭和33年卒)

日本も世界も昨年来激動の時代。世界的にはエジプト、南スーダン、中央アフリカ、アルジェリア、アフガニスタン、シリア、イラン、タイ等での紛争に続き、ソチ冬季五輪時のウクライナ政変、ソチ五輪後のクリミア独立投票とロシア編入、さらにマレーシア航空機370便失踪と大規模な捜索活動、各国を見ても米国でのオバマ第2期政権発足や9月の政府機関一部閉鎖や個人情報問題の発覚、デトロイト市経済破綻、金融緩和縮小へ舵取り、中国では習近平の国家主席就任と一方的防空識別圏の設定や尖閣列島周辺への領海侵犯、国内の環境問題の深刻化や市民デモ等。韓国の歴史認識での反日姿勢や旅客船沈没事件、北朝鮮の核実験やミサイル発射、張成沢氏の処刑と緊張関係、ロシアでは隕石降下やクリミアのロシア編入、11月フィリピンの台風大災害と各国支援等世界的な異常気象や経済的混乱等が続きます。また先日の国連ICCPによる今後の気候温暖化と食糧や水等8つのリスクの指摘や米国のシェールガス革命による中東のOPECの石油市場支配の影響力の低下や米国の経済力の低下が今後の世界情勢の混乱につながる懸念が。

我が国も総選挙で成立した第二次安倍晋三内閣は強い日本を目指し、1金融・2財政・3成長戦略の「アベノミクス経済対策」が始まり、さらに「教育再生実行会議」を設置。数次の答申では、道徳の教科化、教育委員会制度の見直し、英語教育の早期化、教育の多様化が進みます。1月の安倍総理の所信表明は「若者達には無限の可能性が眠っておりこれを引き出すカギは教育再生だ」とし、意欲と能力のある若者に留学機会を実現するとしました。2月のソチ五輪では羽生選手等元気な若者が大活躍しました。また昨年9月には2020年の東京オリンピックとパラリンピック開催がICU総会で決定され、50年前の1964年と同じく今後の日本の展開に大きなインパクトと新しい方向性を示す絶好の機会となりました。また4月の消費税の値上げの影響や交渉中のTPPの方向、少子高齢化での財政問題の顕在化等注視すべき問題も山積みです。

助けあい支えあいの仏教精神のもと知徳体のバランスのとれた全人格教育を目指す母校は、本年も将来を担う高校392名、中学82名の新生諸君を迎えました。在校生は1444人です。また高校卒業は416名で、3月1日卒業式でしたが、大学進学でも、浪人を含む合格者延数は、国公立大87名・現役69名、私立大等638名・現役497名、合計725名・現役566名と大活躍です。国公立大では東京工大、東京学芸大、大阪大3、神戸大、島根大3、岡山大3、広島大5、山口大16、愛媛大8、九大2、県立広島大3、広島市立大3等が、関東私立では早大3、慶応義塾大、東京理科大、明治大3、立教、中央2、法政3、日大6、東洋4、駒沢8、専修5、東海18等、関西では関西大18、関西学院大4、同志社大8、立命館大27、龍谷大36等が、また地元広島では、広島経済大42、広島工業109、広島国際48、広島修道84、東広島近畿大11、比治山15、広島文化学園6、広島都市学園4、福山大5等への合格が報道。進学された同窓の大学生の皆様のご発展を期待します。

スポーツでも母校は幅広く大活躍で、本年3月20日と21日には日本武道館で第36回全国柔道選手権があり、個人戦の60kg級古屋翔君、90kg級貫目純也君と無差別級香川大吾君及び団体戦に母校の元気な後輩が活躍され、特に香川君は準決勝に進出し3位また団体戦は準決勝で東京修徳に惜敗の活躍で、関東の同窓も熱の籠った激戦を応援しました。また昨年9月と10月には第68回国民体育大会が東京で開催され、日野市のボクシング、狛江市のバレーボール、八王子市の体操競技、足立区での柔道に多くの

## 7月5日(土) 12:00より本郷三丁目に集まろう。

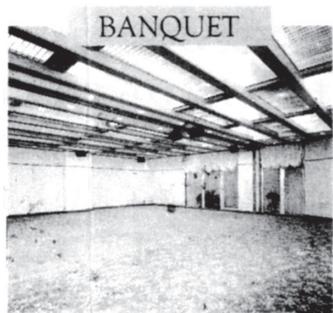
都心に近く、騒音に遠く交通至便の所  
優雅・閑静本郷唯一の

全日本シティホテル連盟員  
日本観光旅館連盟員

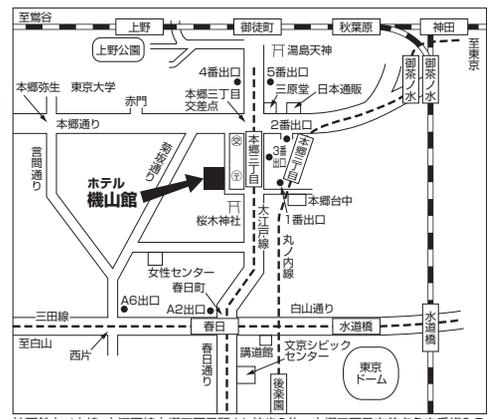
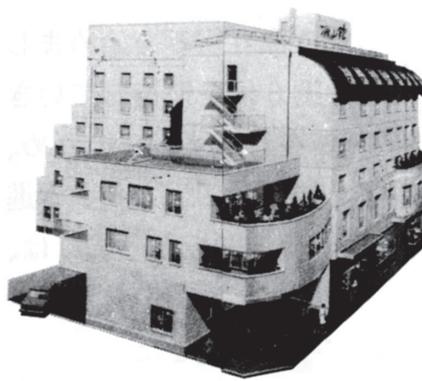
ホテル機山館

代表取締役 重本康成  
(昭和48年卒)

株式会社 機山館  
〒113-0033  
東京都文京区本郷4-37-20  
TEL (03) 3812-1211(代)  
FAX (03) 3816-1218



最新の設備を整えた宴会室。  
大小5ヵ所の部屋(5名~150名収容)をご用意。  
照明、音響など、どれをとっても重厚かつ格調ある空間づくりです。  
会議室としてもご利用いただけます。



地下鉄丸の内線・大江戸線本郷三丁目駅より徒歩2分 本郷三丁目交差点角交番横入

後輩が活躍され、応援に駆け付けましたが、ボクシング・ウエルター級の原田直樹君が優勝の栄誉を勝ち取りました。

さて関東支部は500名余の会員ですが、昨年25年度の第26回総会と懇親会は、7月5日（金）に48重本康成氏が経営の文京区の「ホテル機山館」で開催。当日は関東支部の関係役員と会員の皆様はじめ、本部から33高橋乗宣理事長、吉田義視校長、51山本千曲新同窓会長、55河野敏副会長、49田部哲夫事務局長、近畿同窓会の38川本敏正幹事長が駆けつけられ、ご挨拶いただき総勢約50名余の参加でした。総会後の懇親会では落語の50柳家福治師匠の司会で、来賓の真宗宗門校広島音楽高校OBの健康生活推進協会専務理事の江木さおりさんと元カープ投手大羽進氏の挨拶があり、最年長16年卒西村克哉氏の乾杯の音頭で賑やかに始まり、全員の自己紹介がありました。ボクシング部OB会長の38善本正教氏、7月29日に後楽園でのプロボクシングのデビュー戦に臨む平成21卒の丸亀光君の元気な挨拶が注目を浴びました（29日には丸亀君と19年卒の恩圧健太君がそろってデビュー初戦をTKOで飾る）。落語の44古今亭菊丸師匠の進行によるビンゴゲームも全員で楽しみました。懇親会の締めくくりは、新しく関東支部の代表幹事ご就任の24渡部昭彦氏（ラグビー部OBで明治大学では全国大会出場）のご挨拶に続き、連帯の輪の中「二葉山」の校歌斉唱と記念写真で締めくくりました。本年の総会は7月5日（土）の昼の開催です。本部の同窓会長、校長、理事長もご出席の予定で母校の活動報告もあります。青壮老の皆様の幅広い出席で第27回の総会を大いに盛り上げましょう。大学生は無料です。声を掛け合いのご参加や一人でのご参加、家族同伴の参加も歓迎します。

昨年11月のホテルグランヴィア広島での本部同窓会の総会と懇親会には私と渡部代表幹事、瀧口・室崎両副会長が出席し、私が乾杯の音頭と関東支部の現況の報告をしました。懇親会では、現役グリークラブの生徒さんの素晴らしい合唱に拍手喝さいが。また新同窓会長山本千曲様からさらに幅広い同窓活動を推進する決意表明のご挨拶が。山本新会長には引き続き宜しくご指導賜りますようお願いいたします。

同窓のご活躍としては1月30日の東京広島県人会総会では24岩部金吾副会長が元気に乾杯の音頭をとられ、会場が盛り上がりました。また2月の日本プロゴルフ協会（PGA）の新会長にツアー通算30勝の実績を持つ49倉本昌弘氏が「改革できるのは私」と、全国89人の代議員による出直し会長選で前会長を破り、選出されました。ご健闘を祈ります。

また落語の菊丸師匠・福治師匠には昨年6月15日母校の地元横川落語会での共演や本年5月30日池袋演芸場での共演を含め、健康増進は「笑い」からの社会意識の定着の中で幅広く活躍され、昨年5月19日早朝のTBS全国放送の落語研究会での菊丸師匠の人情努力話しの放映は素晴らしいものでした。また終戦記念日の8月15日にはNHKBS1で日米終戦72周年特別番組「米国生まれの日本兵」には16西村克哉氏が出演され、活動紹介とインタビューが放映され歴史の重さを再確認しました。

執筆では高橋乗宣理事長が浜矩子教授との共著「2014年戦後最大級の経済危機がやってくる」（東洋経済）では、グローバル経済と国民国家との相克が世界経済の火種となると指摘され、「成熟戦略」のもと「シェア」は「奪い合い」から「分かち合い」へ、日本が進むべき道は「協調的分権体制」「包容力と多様性をもった社会」を皆が協力して創り上げることで、日本は自然や人類の「共生の時代」の先駆的役割を担うべきとされました。

さて我々同窓は、新しい社会づくりや地域づくりに家庭、地域、学校での総ぐるみの中で、経験の語りや行動で積極的に「絆」社会の構築に参加しましょう。同窓会は母校への思いを基礎に「青壮老」全員参加です。学生さんも、現職の方も、会社を卒業され地域や孫教育や趣味やスポーツに意欲的に参画されている方も、是非積極的に御参加下さい。ゴルフ会も活躍中です。幹事への自薦他薦大歓迎です。幹事会は渡部代表幹事、瀧口総括、重本局長のご指導の下、年5回程度です。「崇徳応援旗」もあり、必要なときは一緒に応援に駆けつけましょう。 合 掌

## 崇徳教育の「新たなる始まり」

崇徳学園理事長

高橋 乗宣

首都圏で豪雪が降り積もるなど、今年も、とても厳しい寒さで始まりました。昨年と同様に、五月になると夏日が続き、春も秋も無く、冬と夏だけの厳しい年になるのではと危惧しております。どうやら地球全体が壊れ始めているようですね。とりわけ関東以北の地域では気候変動がとても激しい様子で、また、地震や竜巻なども頻発しているようですが、崇徳同窓の皆様にはお変わりなくご健勝のことと拝察し、お喜び申し上げます。

さて、崇徳が、明治8年（1875年）に学仏道場として開学してから、今年140年という節目の年にあたります。この間には、日清、日露、満州事変から太平洋戦争と、幾多の戦乱を潜り抜け、原爆に被災して500人を越える生徒が被爆死するなど、苦難の歴史がありました。また、バブル経済の真ただ中で利権がらみの不祥事を起し、10年以上にわたる外様支配も経験しました。

こうした苦難の歴史を乗り越えて、学園はすっかり健全な姿を取り戻しました。全学の生徒数は中高合わせて概ね1400名を保ち続け、財務状態もほぼ理想的な均衡状態に復帰しております。今年3月の進路実績では、87名が国公立大学へ進学するという、かつてないハイレベルな実績をも達成しております。

21世紀に入って、崇徳はまさしく「新たなる始まり（本願寺光真門主のお言葉）」にあると言えます。

とはいえ、崇徳生たちが生き抜いてゆかねばならないこれからの国内外の環境は、決して平穏なものでは無さそうです。東西冷戦という厳しい対立枠の中では表面化しなかった民族対立や領土・領海問題が、今、世界の各地で表面化しております。そうした中をグローバルな人材として駆けずり回ることが求められるわけであり、やはり、彼らの前途もまことに多難だと言わねばなりません。

こうした厳しい時代を生き抜いてゆく上でも、「崇徳興仁」で結ばれた同窓の輪が、非常に大きな力になることでしょう。母校と後輩たちへ、今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますように、心底より念じております。

## 日本一が2つ、国公立合格者は87人、新入生も順調

崇徳中学高等学校 校長  
吉田 義視

少し時間が経ってしまいましたが“全国優”の話題を最初にご報告します。

昨年夏の北部九州インターハイ（H25年8月：福岡）で崇徳高校柔道部は団体戦優勝を果たしました。強豪並み居る関東勢に勝ってインターハイの優勝旗を広島にもたらしたのは初めてのことで、まさに「快挙」を達成しました。選手と彼らを支えた部員たち、保護者の方々、そしてたくさんの支援者のみなさまの願いと力が実を結んだものと、本当にありがたく嬉しく、感動しています。少し日が過ぎてからでしたが10月20日には300人が集まって盛大に“団体優勝を祝う会”を開くことができました。これまでの“インターハイ優勝”はすべて個人戦でした。そのすばらしさに倍して今回の“団体戦優勝”には本当に重みがあります。

また、秋の国体ではボクシング・ウェルター級で高校2年の原田直樹君が、前年の岐阜国体と今年夏のインターハイ（佐賀）でのともに“準優勝”だった悔しさをバネに、見事に優勝しました。彼は春の選抜大会（兵庫）でも優勝し、3月にはブルガリア共和国で開かれた世界大会に出場することができました。今年は3年生ですから、夏の“南関東インターハイ（ボクシングは神奈川）”にも大きな期待がかかります。勝てば“3冠”を達成することになります。

他にも全国大会（インターハイ・国体・選抜大会など）には、バレーボール部・弓道部・体操部などが出場しています。また、県大会レベルでは自転車競技部・テニス部・剣道部・水泳部・サッカー部などが活躍し、新たにフェンシングをする生徒が入学して部昇格をめざすなど頼もしい動きも出ています。

期待の声の大きい硬式野球部は“惜しい”の連発でした。どの大会も“前評判”はそれなりの高いものがあるのですが、夢の達成には至っていません。やはりOBのみなさまの関心が一番のようで、いろいろな“ご助言”など頂くことが多いのですが、今暫く部長・監督・選手たちの奮励努力に俟ちたいと思います。

一方、今春の“大学合格状況”も大きく好転しました。昭和60年、Aコースが立ち上げられ、当時は10数人程度の国公立大合格者だったのを、何とか30人は、50人を越えるまでに、と目標を上げながら努力が続けられてきました。名称は“特進”に変わり、近年はそれが2クラス編成となりましたが、合格実績は思うに任せず、50人のラインを前後しながら長い時間を経過してきました。校内でも、また関係者のみなさまからも「国公立100人」と言われて久しいのですが、特進70人の現状でこれを実現するのは至難です。それを、公立大の重複はあるものの、今春は87人の合格者を出すことができました。こちらも快挙です。これひとえに生徒諸君の頑張り、と、彼らを導いた関係教員諸氏の努力の賜物と、ほんとうに嬉しい限りです。また、私立大学への合格状況も県外への受験が回復してきて、首都圏・関西圏の難関校の合格数が戻りつつあります。景気動向が好転した実感は薄いのですが、いわば先行投資である教育費にける保護者の並々ならぬ思いが感じ取れる受験の様相と合格状況でした。早慶・マーチ・関関同立なども数年前のよい状況へと回復しました。一方、地元大学では広島修道大の人气が相変わらず高く、合格者は80人程度、入学者数は本校卒業生の1割を越えています。近年は広島では「修道ひとり勝ち」などと言われるほどに学生を集めていて、高い人気があります。理系は広島工業大への受験者が多く、今年合格者が100人を越えました。

続いて今春の入学者の様子をご報告します。崇徳が“通学圏”としている広島県西部の12歳と15歳の人口動態は“微減”が続いています。学力など児童・生徒の資質を保ちながら本校への入学者を確保してゆくのはなかなか難しいところがあります。無償の公立と競争できる“教育力”や“地元の評価”が得られなければ安定した生徒募集はできません。おかげさまで崇徳は、高校で僅かなブレはあるものの、また中学校でも目標数に数人の不足は出ていますが、“順調”と言ってよいほどの入学者を迎えています。毎年の増減も小さく、安定した状況が続いています。今春は中学校82人、高校392人でスタートしました。

今年のご報告の内容がこれまでになく明るいものとなりました。攻めるより守るのは厳しいものです。しかし、上向きにある崇徳学園を長く維持し、さらに高みを目ざしてゆきたいものと教職員一同意気込んでいます。生徒諸君が大きく育ち、立派な人間に、社会に有用な人材へと育ててゆくのに、崇徳の教育力が大いに力となることを目指して更なる精進を続けます。

同窓生諸兄におかれましては、ますますのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

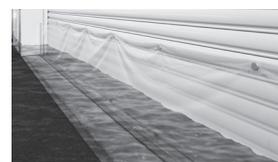
BX

文化シャッター

For You

心をこめた  
製品づくりをしています

たとえば、ゲリラ豪雨による浸水対策として開発した「止めピタ」。「使う人が無理なくスピーディに設置できるためには…？」お客様視点の問いが、急な増水にも立ち向かえる製品の“強み”となりました。これからも文化シャッターは「For You」の発想で製品をお届けしてまいります。



簡易型止水シート(シャッタータイプ)

**止めピタ**

軽量で簡単に設置が可能。シャッターに取り付けるシート状の浸水対策です。

文化シャッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3  
TEL.03(5844)7111

代表取締役会長

岩部 金吾 (S24年卒)

取締役会長

**瀧口 裕行** Hiroyuki Takiguchi

## 株式会社 アルファワールド

〒194 - 0032 東京都町田市本町田 197 - 10

TEL. 042 - 812 - 3005 FAX. 042 - 812 - 3005

E-Mail jose-hiroyuki@ab.auone-net.jp



中国醸造

お酒は20歳を過ぎてから。

54年卒 光若 由啓 電話 03-5475-6051



この度、弊社工場は自主的な衛生管理を推進すると共に、一定水準以上の食品衛生管理を行っていること認められる施設として、広島県食品自主衛生管理認証を取得致しました。

### 株式会社 山豊

〒731-3196 広島市安佐南区沼田町伴 79-2  
TEL 082(848)7778(代) FAX 082(848)2334

0120-311238

URL <http://www.yamatoyo.co.jp>

e-mail y-info@yamatoyo.co.jp

心のこもった旬の広島菜漬「安藝菜」を、大切なあの方へ...



内閣総理大臣賞受賞  
農林大臣賞受賞  
農林水産大臣賞受賞  
H.14 S.50 S.46

あきな 安藝菜

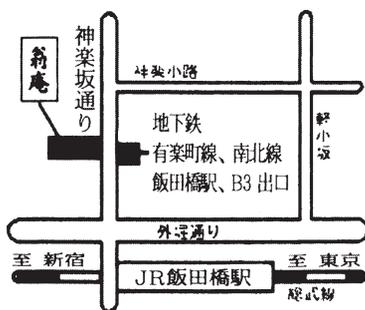


会長 山本 豊 (昭和19年卒)  
代表取締役 山本 千曲 (昭和51年卒)

## 生粋心 庵

東京都新宿区神楽坂 1-10 アイダビル

PHONE 03-3260-2715



柳家

## 福治

電話 FAX 五十年卒 本名 山中英嗣  
〇三ー五三七二ー一八〇二

## 古今亭 菊丸

電話 FAX 四四年卒 本名 占部正夫  
〇三ー三八四五一四一七九  
Email Ushio@aol.com

パーティ・結婚式の司会・余興  
ゴルフ・旅のお供  
引越しの手伝い  
落語会等、その他何でもお電話ください

### 崇徳学園関東支部 役員名簿

顧問	S16	西村 克哉	幹事	S44	幸田 俊三
名誉顧問	S24	岩部 金吾	幹事	S48	重本 康成
会長	S33	黒川 弘	幹事	S49	津川 博光
副会長	S24	渡部 昭彦	幹事	S50	山中英嗣(柳家福治)
副会長	S29	瀧口 裕行	幹事	S50	三雲 龍範
副会長	S35	小笠原 真二	幹事	S51	藤井 康司
副会長	S37	柄林 範邦	幹事	S52	藤武 篤良
副会長	S46	室崎 宏治	幹事	S52	榊田 基裕
幹事	S34	井原 文之	幹事	S54	光若 由啓
幹事	S36	重元 喜彦	幹事	S54	上平 義治
幹事	S40	浅辺 正	幹事	S55	川崎 哲司
幹事	S42	上村 彰	幹事	S55	田村 淳
幹事	S44	占部正夫(古今亭菊丸)	幹事	S61	武田 義博

## 広島お好み焼 広島っ子

〒162-0821 新宿区津久戸町1番地12号 中村ビル1F  
TEL. 03-3260-5888

電話注文・お持ち帰りも出来ます。



## 存在感ある同窓会を目指して！

崇徳学園同窓会会長  
山本 千曲

関東支部の同窓のみなさまには、日頃より同窓会活動にご理解とご協力賜り誠にありがとうございます。

さて、昨年 11 月 8 日にホテルグランヴィア広島にて同窓会総会・懇親会を開催しました。関東支部からは、黒川会長をはじめ副会長・幹事の方々が、遠路にもかかわらず、故郷広島の地にお運び下さいました。大変ありがとうございました。

昨年度の同窓会の取り組みと致しましては、正副会長会議や幹事会・委員会などを開催し同窓会総会懇親会に向けて、当番幹事の皆さんと準備を進めてまいりました。また大本前会長の目指された「顔の見える同窓会」として、学園 PTA 役員との懇談会や、崇徳祭への出店などで同窓会の存在感を大いにアピールすることができたのではないかと考えております。特に新たな企画と致しまして、同窓生であるもみじ饅頭の「にしき堂」の大谷社長のご協力を頂き「崇徳餅」を製作して崇徳祭や同窓会総会懇親会で販売し、同窓生や在校生その保護者のみなさまからかなりのご好評を得ました。

また、在校生への奨学金やクラブ活動への激励費の支給、有名劇団の公演によるところの芸術鑑賞にたいする補助や卒業生全員へ記念品の贈呈など、同窓会として母校の教育振興を目的とした活動を行っております。

今後は、今まで以上に行動範囲を広げ、各支部はもとより各クラブ OB 会にも出向かせていただき、より多くのみなさま方と親睦をはかりながらご意見やご要望をしっかりと伺いし、できる限り同窓会に反映させたいと考えております。私は、同窓会長の大役を仰せつかり 2 年目を迎えまだまだ不慣れなこともあります。母校並びに同窓会の発展のために日々精進してまいります。そして、母校発展の一助となるよう、今年度も更なる活動の幅を広げ、より一層存在感のある同窓会をめざして頑張る所存です。

最後になりましたが、これからの学園の発展と関東支部の皆様方の益々のご健勝を心から念じ並びに同窓会へのますますのご支援を心からお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

## 崇徳学園同窓会関東支部 会報にむけて

生徒会担当  
古市 徹  
(昭和 62 年度卒)

崇徳高等学校生徒会は校長、教頭を顧問として崇徳高校の生徒で組織されています。その中で生徒会執行部は会長、副会長、会計をはじめとして、対面式・生徒総会・クラスマッチ・崇徳祭・あいさつ運動など生徒会行事の運営、企画を行っております。

私は昨年度まで、11 年間にわたり、生徒会担当として生徒、教職員と共に生徒会に関わってきました。「存在感のある生徒会にする」、「自主的な生徒会活動の促進」、「各委員会活動の活性化を図る」の 3 本柱を目標にし、生徒が主体となり、アピールできる生徒会を目指して日々活動してきました。

毎年恒例の崇徳祭では、保護者の方をはじめ、地域の方々にもたくさんご来校いただいております。崇徳学園関係者全員でおもてなしの気持ちを忘れず、ご来校いただいた方をあたたかく迎えています。また、同窓会のみなさまにも毎年参加していただき、誠にありがとうございます。飲食店や落語、マジックショーなどのイベントを通して現役生、PTA との交流を含め、崇徳祭を盛り上げていただき感謝申し上げます。

崇徳祭にあたっての準備はとて大変ですが、終わったあとの達成感はいへんなもので、執行部みんなの顔には最高の笑顔があります。この経験を活かして大きく生徒たちは成長しています。生徒会執行部になり様々な学校行事を通して、1 年後、2 年後には自ら考え、積極的に行動できる人材に育っています。私にとってその姿が輝かしく生徒会担当として一番うれしく思います。

## 柔道部近況報告

崇徳柔道部監督  
加美 富章

昨年を振り返りまして、年明け早々に行われる 1 月の全国高校選手権県予選において敗退し全国大会出場を逃し、柔道部員全員悔しい思いを致しました。しかしその悔しさをバネに一日一日を大切に次は確実に勝とうという気持ちになりました。

そういった経験もあり 6 月の高校総体県予選では屈辱をはらし全国大会への切符を手にすることができました。

7 月に行われる金鷲旗というフリー参加の全国大会ではベスト 8、そして 8 月に行われる全国高校総体で悲願であった団体優勝を果たす事ができました。優勝旗は関東地区の強豪校のみであったが、この流れを 22 年ぶりに止める事が出来ました。そして春の高校選手権の県予選で敗退した高校が優勝したのは、初めてということでした。

そういった記録よりも生徒達は、やればできる・その気になればできる、しにものぐるいで必死に取り組む事によって目標は達成できるんだ、ということに対してこれ程大きな自信につながる事はないなと思えました。そして同時に日頃から支えて頂いている周りの方々に対する感謝の気持ちを持つことの大切さも覚えました。

これから夏へ向けてまた、重要な大会が始まりますが更に精進し満足することなく、子供達の成長と可能性を信じ頑張る所存です。変わらぬご支援ご声援を宜しくお願い致します。

## バレーボール部近況報告

崇徳高校バレーボール部顧問

本多 洋

現体制になって10年余になりますが、崇徳バレーの原点である“パス”を大切に、名門のこの部を復活させること、一人ひとりが自立した成人になることをテーマに、指導に取り組んできました。選手たちの精進もあって、インターハイ・春高バレーの予選で一度ずつ代表権を逃した以外は、県内大会では優勝を続けていました。しかし、残念ながら、昨年のチームは最後の春高バレー予選（11月）で敗退し、6年ぶりに全国大会への代表権を逃し、通常より1ヶ月半早く新チームへと切り替わりました。全国での頂点に立てる実力を持ちながら、『勝って当たり前』と思われているプレッシャーに押し潰された感がありました。

今年度のチームづくりは、ここ数年と同様に、平日の練習は全日本男子チームのトレーニングコーチ（本校卒業生）が体力測定をして作成したメニューに沿った身体づくりと、‘パス’を中心とした基本技の修得・向上に終始しています。それに加え、全国大会で優勝争いをしている高校や、地元大学生に胸を借りての練習試合を通して、総合的なレベルアップを目指しています。その状況から判断しますと、以前にも増して高いレベルで、内容の濃いプレーが多くなっています。それを実戦でどれだけコンスタントに発揮できるかが、全国制覇への鍵になると考えています。

受け継いだ伝統に恥じることなく、一つひとつのプレーを大切に精進を重ねてまいります。今後とも諸先輩方の応援をよろしくお願い申し上げます。

## 【現チームの公式試合記録】

★広島県新人大会(1月)優勝 ★中国新人大会(2月)準優勝 ★中国大会広島県予選(4月)優勝 ★中国高校選手権大会(5月)優勝

## 人と人とのつながり

関東支部幹事

津川 博光

## &lt;自己紹介&gt;

関東支部の同窓会に昨年より仲間入りさせていただいております、S49年卒の津川と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

私の経歴は、白島小学校（町内野球で達川元カープ選手とバッテリー）⇒牛田中学校（バスケット部）⇒崇徳高校（グリーククラブ一時在籍）⇒明治大学（政経学部）⇒損害保険会社入社。そして現在、生命保険販売社員の採用業務をしております。

## 「人とのつながり」

最近読んだ本で「下りの中で上りを生きる」（鎌田實著）の中に「人間が生きるためには、3つのつながりがどうしても必要。1つは人と人。2つ目は人と自然、3つ目は体と心のつながりが大切。特に下りを生きる時は特にこの3つが大事なのだ。」というのがありました。

まさに「人と人とのつながり」を感じる年代となり、この「縁」をさらに広げたいと思っています。

## &lt;崇徳高校恩師との出会い&gt;

感銘を受けた先生も数多くおられ、試験によるクラス分けで英語は天野守信先生（グリーククラブ創業者）、数学は久保和彦先生（第48回選抜高校野球優勝監督）に教わりました。

中でも人生の転機となった、国語の矢野先生（早稲田大学出身）。「東京は動いている！男子たるもの・・・」という話を繰り返し聞かされ、東京6大学への憧れから現役合格を目指す契機となり、3年夏休みに山県郡戸河内町の学生村で必死に勉強した思い出があります。首都「大東京」のダイナミックな話を聞かなかつたら、恐らく上京していなかったでしょう。

担任の菅瀬完爾先生（現 教蓮寺住職）には、「何でも見てやろう」精神を植えつけてもらい、春休みに同級生3人で四国

一周旅行を経験。さらに、結婚式のスピーチや、また自宅から近いことあり両親の葬儀や法事での胸を打つ説法など公私に渡り大変お世話になりました。これも、母校出身ならではの「つながり」であり、感謝しきれません。

## &lt;関東支部同窓会&gt;

一昨年東京広島県人会の存在を知り入会するにあたり、見知らぬ私の推薦人を快く引受けていただいたのが、関東支部同窓会事務局長の重本康成先輩。

重本先輩からの案内で同窓会に参加し、まず多才な方が多いのに驚きました。落語家・竹細工士・会社経営者・ボクシングチャンピオン・官僚・ラグビー日本代表など。

特に、文化シャッターの岩部会長は、「お茶の水博士」似で、昨年同窓会ゴルフコンペに初参加した際、賞品から当日のパーティー費用など全て会長が寄付していただいた。コンペで参加費を出さず、お土産までもらうというのは、今まで経験が無いこと。年齢に関係なく母校の同窓生であるだけの「つながり」で、後輩への配慮と度量の「人間力」に感服。

まさに「崇徳興仁務修礼讓」精神そのもので、「善い行いをとうとび（崇徳）、思いやりの心をおこし（興仁）、つとめて礼儀を守り互いに譲り合う（務修礼讓）」ことを実践されている！

## &lt;最後に&gt;

人生の手本となる母校の出身者が身近に大勢おられることに誇りを持つと共に、歴史ある母校の良き教えの伝統を繋いでいく責任を痛感しています。

一人でも多くの同窓生が、上京し、関東支部同窓会に参加してもらい、素晴らしい人との出会いや「つながり」から、お互いが人間的に成長できる場としても同窓会を存続し、更なる母校の発展に寄与していきたいと願う今日この頃です。

## 社会福祉法人三篠会 高齢者福祉施設 神楽坂

施設長 武田 義博 (S61年卒)

東京都新宿区矢来町104(東西線神楽坂駅目の前)

TEL(03)3269-7555 FAX(03)3269-7553

e-mail:misasa\_kagurazaka@yahoo.co.jp

http://www.misasaki.or.jp

法人本部

広島市安佐北区白木町井原1244番地

